42 期生

④自閉症者援助技術

課題：あなたの職場で実践した自閉症児・者の「問題行動」の解決とより自立した生活に向けた取り組みについて論述しなさい。

この事例は、私が通所更生施設で働いていた時の事例である。

本事例は、知的に中度の自閉症で19歳の男性Aである。特別支援学校を卒業後、通所施設に入所し2年目で、入所当時より自傷・他害、強いこだわりがあるが、基本的な生活習慣は確立されている。

入所当時より、施設の生活に馴染めず、自傷・他害行為はあったが、1年間は週5日間遅れず施設に自転車で自力通園して来ていたが、2年目に入り登園時間に遅れることが多くなり、施設での日々のカリキュラムにも、落ち着いて取り組みにくい日が多くなっていた。家庭に於いても毎日の生活の中で自分が行っていることが思うようにできないと、登園日でも登園準備ができなかったたり、登園できてもその日は自傷・他害行為も多く、落ち着きにくい状態が続いた。

今後の支援を考えた際に、施設だけで考え進められるものでなく、再度家庭にAさんの家庭での様子を尋ねると、小さい時から障害があるからといってできないことはないと考え何事も確実にできるよう教育してきた。勉強も1日2時間母親が付きっ切りで文字の練習、文章の書き方・絵等を日々カリキュラム決め行っている。施設に入所してからも変わりなく毎日続けているとの話しがあった。また利用者の家は兼業農家で、田畑の仕事は父親が教え、親のできることは何にでも取り組み、親亡き後のことも考え本人には厳しく教えてきたとのことだった。

施設は、Aさんにとって学校と環境も違い、始めて取り組むカリキュラムであったり、家で行われているようなAさん中心のカリキュラムで向き合いことができない。また、支援学校では少人数での障害別授業を受けていたが、当施設は複合施設であり約30名の利用者が同じ部屋で作業・学習といった毎日の活動を行うため、場所が変わっただけでなく周囲の利用者の声・行動が気になり苛立ちが募り自傷・他害行為が多くなった。

施設では、自傷・他害行為の原因になる苛立ちを少しでも解消できるよう、Aさんが幼い頃から取り組んできたものをカリキュラムに取り入れ、日々のカリキュラムも少人数での取り組みにし、Aさんと向き合うことで様子を見ていくことにした。

作業は箱の組み立て作業にし、一つの工程でできる部分をAさんに任せ、Aさんが作業をする場所を決め、皆と同じ作業室であっても周囲からの関わりを最小限に止めるよう配慮した。

余暇活動では、新しい活動を取り入れるのではなく、Aさんが家で行っている農作業での草取り・土作りを取り入れた。施設内の園庭の草引きを曜日・場所を決め、少人数でどの利用者も同じ作業はするが、個人の作業場所を決めることで、

PURC Site

周囲から急かされたりAさんがしている作業を混乱させず、Aさんが作業をやり遂げたことがわかるよう取り組んだ。

土作りはAさんのこだわりが強く、他の利用者がした作業内容では満足できず、他の利用者の土を自分の土と一緒にしてしまい、他の利用者との間で問題行動が発生したこともあり、土作りはAさんに任せ、様子を見ていくことになった。

Aさんは簡単な文字が読解できたので、作業・余暇活動ともに1週間のカリキュラム・作業工程・場所を表で説明し理解を得るようにした。

Aさんは帰宅後、一日施設で行ったことを話し、「頑張った」と褒めてもらうことで一日を終えることにしていると家族から話を聞き、Aさんが家族に話をした際、家族が理解できないパニックを起こさないよう、連絡帳を通してできるだけ一日の様子を詳しく知らせることとし、Aさんが施設での一日生活をどのように思い家庭で話しをしたかを施設に知らせてもらうことで、今後の支援の取り組みに役立てて行きたい旨を伝えた。

1年目のカリキュラムと違い、Aさんの取り組みやすいカリキュラムに変更し、Aさんが戸惑うことのないよう進めたが、取り組みを始めた際は毎日数回カリキュラム表を支援員に見せ、Aさんより一日の流れの確認があった。家族と話しをしてAさんの取り組みやすい作業・余暇活動を考え取り入れ、日々の生活で達成感をもてるようになったことで、以前に比べ苛立ち等も減り自傷・他害行為も少なくなってきた。家庭でのAさんに対する考え方・今後の進め方等難しいと思われることもあるが、落ち着いて園生活が送れる時には、家庭で行っている手伝いの掃除・食事の手伝いをカリキュラムに少しずつ取り入れながら、Aさんに負担の無い範囲で支援に取り組んでいく体制作りを進めた。

この事例は支援していくうえで、カリキュラムに捉われず本人を知る事の大切さを知られた事例である。

講評：

まずは利用者にとって安心できる環境を設定し、自立的で達成感のある活動で日々を過ごせるようにすることで、相対的に情緒の安定と問題行動の軽減がはかられたことがよくわかるレポートである。また、利用者の特性を理解し、得意なことを活かしただけでなく、保護者の思いを尊重しつつ支援を展開できている点も良い。